

全構協・中国支部 経営力向上研修会を開催 2日にわたり40人参加

【広島】全国鉄構工業協会中国支部（支部長＝高橋伸和・出雲鉄工社長）は14日と15日の2日間にわたって、広島市内のホテルで「経営力向上研修会」を開催、会員企業の後継者や幹部など40人が参加した。

同協会は、今後どのような環境下でも企業・業界が安定して発展、持続できるように「経営」に関する基本的、実践的なテーマについて共通認識を持つための活動をしている。2016年度下期から開いており、北海道、北陸、関東、九州に続き、中国支部は5番目の開催。今後は東北、四国



研修会の様子

中部、近畿で予定しており、9支部すべてでの実施を目指す。

冒頭、山本泰徳・全構協運営委員（スパントス社長）は「リーマン・ショックなどを経験しているからこそ、同じことの繰り返しを避け、これから何をすべきか考えていかなければならない。講演でノウハウをしっかりと吸収し、勉強をしてほしい」とあいさつした。

続いて玉木信介・全構協副会長が「これまでの反省を踏まえて、さらに経営力を向上していく必要がある。九州支部で開催した研修会は質が高く、内容が充実していたと好評だった。今回の研修会も

分りやすく、より濃い中身となっているの
で有意義に活用してほしい」と訴えた。

14日午後と15日の午前にかけて、足立高浩・大分県鉄槽工業会副理事長（東鉄工業社長）が「経営力アップ講座（FAB・MOTIマネージメント・オブ・テクノロジー）」をテーマに講演。経営技術（製造業が持つノウハウや考えを体系化した経営学）の考え方をもとに①決算書や月次決算の作成などから経営分析、利益分析をする計数管理、②営業戦略と情報交換の重要性を説いたマーケティング、③技術向上や5S活動などの業務改善について具体例を挙げて説明し、まとめとして業界の永続的発展について話した。

15日午後からは神崎隆一・大分県鉄構工業会理事長（神崎鉄工社長）が「元銀行マンが語る」銀行を知ろう」をテーマに、銀行の考え方や交渉テクニックなどを紹介した。

引き続き、神崎理事長が「未来への道標」中期経営計画について講演。中期経営計画の策定手順や作成方法を、企業経営分析などを解説し、目標実現のための具体的対策を明確にする必要性を説明した。